客船よもやまばなし

＜連載㉖＞

ふたたび瀬戸内海クルーズ時代

大阪府立大学船舶工学科助教授
池　田　良　穂

第9回の「客船よもやまばなし」で，「瀬戸内海クルーズ時代」として，瀬戸内海でのクルーズ産業への期待を書いた。また，第23回では「瀬戸内海クルーズの可能性に関する調査研究」と題して，筆者らが行なった調査研究の概要について書かせて頂いた。いずれも，クルーズ水域としての大きな可能性を秘める瀬戸内海での本格的クルーズ出現への筆者の熱烈なラブコールであった。

平成元年，世は「クルーズ元年」に沸いている。「ふじ丸」「おせあにっくぐれいす」を始め，続々と新造，改造クルーズ客船の計画が発表され，注目を集めている。そして，瀬戸内海にもついに筆者が期待していた宿泊型のクルーズ客船が姿を見せ始めた。

一隻は、広別汽船の広島～別府間の定期旅客カーフェリー「由布」。定期航路客船ながら船内で食事を楽しみ，船上での生活自体を楽しむことを基本コンセプトとして設計された船として，この5月に登場した。筆者は，同船の計画段階で多少の意見を述べさせて頂いただけに，同船の就航にひとしおの喜びをもっている。まだ，乗船してつぶさに船内のハードおよびソフトを見る機会には恵まれていないが，この8月にはぜひ乗船してみる予定である。この5月に，バルト海のクルーズ・フェリーを視察して，定期航路であっても，船旅自体を楽しむ人々を大量に集客することが，実際に可能だということを実際に目にし，その経営者たちの自信に満ちた話を聞いて，これは日本においても実現不能のことではないとの確信を得た。スウェーデンとフィンランドを結ぶクルーズ・フェリーは年間680万人の乗客を得ており，この数は両国の全人口の約半分とのことである。

広島～別府間を走る「由布」も，本格的な，新しい日本のクルーズ・フェリーとして「瀬戸内海の船旅」復活のパイオニアとなるように思う。

もう1隻は、瀬戸内海汽船が7月から，毎月1回広島～阪神間に就航させた「インランド・シー」である。この船は，広別汽船がこの5月まで広島～別府間に投入していた旅客カーフェリー「阿蘇」を神田造船でクルーズ客船に改造したもので，総トン数2,500トン，宿泊定員は150名。毎月1回の瀬戸内海クルーズの他は，チャーターに出されるという。この船には，7月7日，大阪起点の2泊3日の瀬戸内海クルーズに処女航海に家族で乗り込んだ。全体の印象としては，8年ほど前に体験したライン河クルーズ客船（千総トン，旅客定員200名）の場合とよく似て，旅客定員の

少ないだけに，乗組員と乗客がすぐに顔なじみとなれ，非常にアットホームな雰囲気の気持ちのよい航海が楽しめたことであった。最近は，カリブ海クルーズなど比較的大型のクルーズ客船に乗る機会が多かっただけに，大変新鮮に感じた。食事は瀬戸内海汽船がディ・クルーズ船「銀河」や陸上のレストラン事業で着実に実績を積んで来ただけに，なかなかおいしいものであった。3月に乗船したＱＥ２などの料理ははるかに凌ぐレベルのものであった。ダイニング・ルームは今回の改造で新設されたもので，なかなかシックな雰囲気のもの。インテリアは大丸が担当したとのことであった。スペースの関係からかバイキング方式をとっていたが，これも乗客ひとりひとりが好きなものを好きなだけ取れるという点ではよい方法かもしれない。しかし，夕食だけはサービスをしたほうがリッチな気分が楽しめるような気がした。

展望のよいピアノ・ラウンジでは，女性がピアノを弾くのを聞きながら，ゆっくりとアルコールなどを飲むことができる。筆者も，２泊３日の航海中，朝から深夜まで，ずいぶんここでアルコールを楽しんだ。席が32席のため，満船の場合には若干窮屈で，なかなか席がない状態になりそうであるが。船底のほうにアミューズメント・ホールという，この船のメイン・ラウンジがある。インサイドのため，昼間の使用には適していないが，ナイト・クラブとしての機能が中心の公室で，いろいろなエンターテイメントもここで行なわれる。

エンターテイメントはかなり充実したものであった。プロのクルーズ・ディレクターが女性のクルーズスタッフと共に乗客を一日中楽しませることに専念しており，カリブ海のクルーズ客船とほぼ同じ思想を取り入れている。日本のクルーズ客船では，始めての体制ではなかろうか。「クルーズ・ディレクターと共に」では船内案内，クルーズの楽しみ方をショー形式で紹介，ビンゴ・ゲーム，ホース・レースなども，上手に企画，運営されていた。瀬戸内海汽船の中岡取締役がカリブ海クルーズなどを視察してきた成果が随所に生かされていた。

キャビンは，改造船ゆえに若干レベルが低く，シャワーやトイレもついていない。この点がハード面での今後の検討課題となろう。

今年は，９月15日～17日，10月20日～21日，11月10日～12日，12月22日～24日，12月31日～１月２日に，阪神または広島起点のクルーズが企画されている。料金は２泊３日で４万円弱から９万円程度。一度，「インランド・シー」の瀬戸内海クルーズを楽しまれてはいかがであろうか。我々の船の会でも，一度みんなで乗船する機会をつくってみたいと考えている。

この　インランド・シーの処女航海中に船上で一冊の本を読んだ。瀬戸内海汽船の仁田会長の書いた「文明の海」という本である。瀬戸内海の開発をどう考えるべきかについて，海からの視点で論じた大変ユニークな本で，大変参考になる点が多かった。瀬戸内海クルーズについても，同社のクルーズに対する考え方と，その着実な歩みが紹介されている。インランド・シーの瀬戸内海クルーズとともにお勧めしたい。出版社は日本地域社会研究所で，定価は2,060円である。

処女航海に出るインランドシー。大阪港にて。

インランドシーのダイニングルーム

ビンゴゲームの進行役を行うクルーズディレクターとクルーズスタッフ。